

中央ろう学校見学

日時

2007年6月23日(土)8時40～15時

場所

東京都立中央ろう学校 大塚校舎

目的

今年から、特別支援教育が始まり、ろう学校の重要性が問われる時期が来ている。中央ろう学校のろう教育に対する取り組みを知り、ろう教育と一般教育はどこが違うのか、を理解する。ろう学校での聴覚障がいをもつ学生への支援を視察することで、プロジェクトの方でも、ろう大学生への支援をより充実していき、また聴覚障がいをもつ学生の学校生活を見学し、聴覚障がいについて、理解を深めることを目的とする。

参加者

プロジェクトメンバー(3名)

● どんなことを学んだか？(全体的な流れ)

ろう学校の特徴としては、少人数制。先生1人に対して、3～4人の生徒が授業を受ける。

ほとんどの先生方も手話を使っていた。

ろう学校だからできること。

1. 十分な視覚活用。電子掲示板など学校放送を情報化することで、耳から入るのではなく、目から入ることで聴覚活用が十分に行うことができる。
2. 手話を使った指導。聞こえないことへの負担を軽減するため。
3. 日本語を育てる視点。
4. 視覚的アプローチの重要性。視覚教材(例えば英語の授業なら、カラー単語カード等)や電子掲示板でのパワーポイント映像などを活用する。聴覚障がい者にとって、視覚的に与えられた情報をいかにして習得できるかが、重要である。

● どんなことを感じたのか？

聴覚障がい者にとって、「手話」は「言語」と同じようなものであり、コミュニケーション方法だと思う。だからこそ、ろう教育に、手話は絶対に欠かせないものだ

感じた。

1クラス、3~4人の少人数制度により、先生と生徒の距離が近く、授業も和気藹々としていて、生徒が先生に言ったことを聞き取れないなど不安を抱えることなく、伸び伸びと勉強できていると感じた。

● これから何をすべきか感じたこと

まだまだ、世間は「手話」に対して、浅い考えをもつ人が多い。「手話」というものが、珍しい、奇異だと思われることなく、当たり前のことだと受け止められるようにするためにも、まずは、自分の周囲から少しずつ「手話」について理解を広めていきたい。

障がいを持つ学生の大学進学率は大学側の偏見などにより、まだまだ低いと聞いている。障がい者に対する世間一般の認識が変わることで障がいを持つ学生の人生の幅も広がるのではないかと思った。

● その他

今年から、特別支援教育が始まった。プロジェクトのメンバーたちも、特別支援教育とは何かを知り、そのメリット、デメリットについて考えてほしい。障がい学生への支援も大事だと思うが、障がい教育についても幅広い知識をもってほしい。